

# AXIS S4000

## デバイスについて

AXIS S4000 Rack Recorderは、監視用ハードドライブを搭載したネットワークビデオレコーダーです。また、ビデオ映像を簡単にエクスポートできるUSB 3.0ポートも搭載しています。レコーダーには、8 TB、16 TB、32 TBの3つのモデルがあります。

## 使用に当たって

### 装置にアクセスする

#### ネットワーク上のデバイスを検索する

Windows®でネットワーク上のAxis装置を見つけ、IPアドレスを割り当てるには、AXIS IP UtilityまたはAXIS Device Manager Extendを使用します。いずれのアプリケーションも無料で、[axis.com/support](http://axis.com/support)からダウンロードできます。

IPアドレスの検索や割り当てを行う方法の詳細については、*IPアドレスの割り当てとデバイスへのアクセス方法*を参照してください。

#### ブラウザーサポート

以下のブラウザーでデバイスを使用できます。

|                  | Chrome™ | Edge™ | Firefox® | Safari® |
|------------------|---------|-------|----------|---------|
| Windows®         | ✓       | ✓     | *        | *       |
| macOS®           | ✓       | ✓     | *        | *       |
| Linux®           | ✓       | ✓     | *        | *       |
| その他のオペレーティングシステム | *       | *     | *        | *       |

✓: 推奨:

\*: 制限付きでサポート

#### 装置のwebインターフェースを開く

1. ブラウザーを開き、Axis装置のIPアドレスまたはホスト名を入力します。  
本製品のIPアドレスが不明な場合は、AXIS IP UtilityまたはAXIS Device Manager Extendを使用して、ネットワーク上で装置を見つけます。
2. ユーザー名とパスワードを入力します。装置に初めてアクセスする場合は、管理者アカウントを作成する必要があります。を参照してください。

装置のwebインターフェースにあるすべてのコントロールとオプションの説明については、*を参照してください*。

#### 管理者アカウントを作成する

装置に初めてログインするときには、管理者アカウントを作成する必要があります。

1. ユーザー名を入力してください。
2. パスワードを入力します。を参照してください。
3. パスワードを再入力します。
4. 使用許諾契約書に同意します。
5. [ **Add account (アカウントを追加)** ] をクリックします。

#### 重要

装置にはデフォルトのアカウントはありません。管理者アカウントのパスワードを紛失した場合は、装置をリセットする必要があります。を参照してください。

## 安全なパスワード

### 重要

ネットワーク上でパスワードやその他の機密設定を行う場合は、HTTPS (デフォルトで有効になっています) を使用してください。HTTPSを使用すると、安全で暗号化された形でネットワークに接続できるため、パスワードなどの機密データを保護できます。

デバイスのパスワードは主にデータおよびサービスを保護します。Axisデバイスは、さまざまなタイプのインストールで使用できるようにするためパスワードポリシーを強制しません。

データを保護するために、次のことが強く推奨されています。

- 8文字以上のパスワードを使用する (できればパスワード生成プログラムで作成する)。
- パスワードを公開しない。
- 一定の期間ごとにパスワードを変更する (少なくとも年に1回)。

## デバイスのソフトウェアが改ざんされていないことを確認する

装置に元のAXIS OSが搭載されていることを確認するか、またはセキュリティ攻撃が行われた後に装置を完全に制御するには、以下の手順に従います。

1. 工場出荷時の設定にリセットします。を参照してください。  
リセットを行うと、セキュアブートによって装置の状態が保証されます。
2. デバイスを設定し、インストールします。

## webインターフェースの概要

このビデオでは、装置のwebインターフェースの概要について説明します。



Axis装置のwebインターフェース

## AXIS Camera Station Edgeでの作業の開始

### 注

システムの設定を行うときはインターネットアクセスが必要です。

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.

インストールが完了したら:

- システム内のすべてのAxisデバイスには最新のAXIS OSが搭載されています。
- すべての装置にはパスワードがあります。
- デフォルト設定での録画が有効です。
- リモートアクセスが使用できます。

## My Axisアカウントを登録する

1. [axis.com/my-axis/login](https://axis.com/my-axis/login)で**My Axis**アカウントを登録します。
2. 多要素認証 (MFA) 方法として**認証アプリ (TOTP)** または**Eメール**のいずれか1つを選択し、画面に表示される指示に従います。MFAは、ユーザーの本人確認のためのさらなるレイヤーを追加するセキュリティシステムです。

## ハードウェアのインストール

1. カメラのハードウェアをインストールします。
2. LANポート経由でレコーダーをネットワークに接続します。
3. カメラを外部PoEスイッチに接続します。
4. コンピューターをレコーダーと同じネットワークに接続します。
5. 電源をレコーダーに接続します。

### 重要

まずレコーダーに電源コードを接続し、電源ケーブルをコンセントに接続する必要があります。

6. 録画やカメラが起動するまで数分間待ってから、続行してください。

### ▲ 注意

オーバーヒートを避けるため、換気の良い環境にレコーダーを置き、レコーダーの周りに十分なスペースを確保してください。

## AXIS Camera Station Edgeのインストール

1. [axis.com/products/axis-camera-station-edge/](https://axis.com/products/axis-camera-station-edge/)に移動し、**[Download (ダウンロード)]** をクリックします。
2. 設定ファイルを開き、設定アシスタントに従います。
3. **My Axis**アカウントでサインインします。

## サイトを作成する

1. AXIS Camera Station Edgeを起動します。
2. **My Axis**アカウントでサインインします。
3. **[Create new site (新規サイトの作成)]** をクリックして、サイト名を付けます。
4. **[Next (次へ)]** をクリックします。
5. サイトに追加するデバイスを選択します。
6. **[Next (次へ)]** をクリックします。
7. ストレージを選択します。
8. **[Next (次へ)]** をクリックします。
9. **[Install (インストール)]** をクリックし、AXIS Camera Station Edgeがデバイスを設定するまで待ちます。  
設定の完了までに数分かかる場合があります。

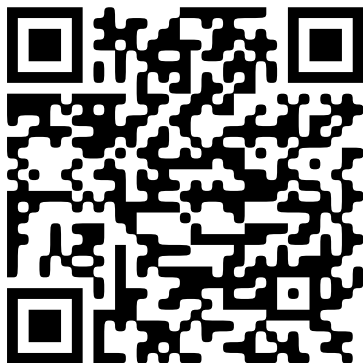
インストールが完了したら:

- システム内のすべてのAxisデバイスには最新のAXIS OSが搭載されています。
- すべての装置にはパスワードがあります。
- デフォルト設定での録画が有効です。
- リモートアクセスが使用できます。

## モバイルアプリをインストールする

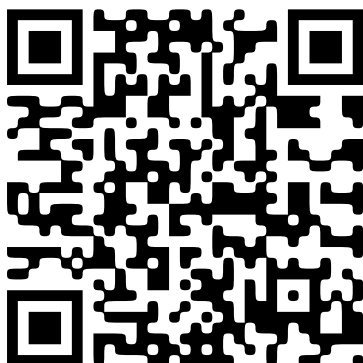
### Android版

[Download (ダウンロード)] をクリックするか、次のQR Code®をスキャンします。



### iOS版

[Download (ダウンロード)] をクリックするか、次のQR Codeをスキャンします。



AXIS Camera Station Edgeモバイルアプリを開き、Axisの認証情報でログインします。

My Axisアカウントをお持ちでない場合は、[axis.com/my-axis](https://axis.com/my-axis)にアクセスして新しいアカウントを登録できます。

QRコードは、日本およびその他の国々におけるデンソーウェーブ株式会社の登録商標です。

## AXIS Camera Station Proでの作業の開始

### レコーダーを追加する

#### 注

AXIS Camera Stationは、レコーダーを新しいシステムに追加するときに、以前のシステムから録画を削除します。

1. **[設定] - [デバイス] - [デバイスの追加]** を選択します。
2. リストからレコーダーを選択し、**[Add (追加)]** をクリックします。レコーダーが表示されていない場合は、**[Manual search (手動検索)]**を使用して手動で検索してください。
3. デフォルト設定を使用し、**[Next (次へ)]** をクリックします。
4. ストレージ暗号化のパスワードを設定します。**[Next (次へ)]** をクリックします。このパスワードは、レコーダーハードドライブにAXIS Camera Station外からアクセスする場合や、装置のWebインターフェースからレコーダーを工場出荷時の設定にリセットする場合に必要です。

5. [Configuration > Devices > Other devices (設定>デバイス>他のデバイス)] に移動し、レコーダーが追加されているのを確認します。
6. [Configuration > Storage > Management (設定>ストレージ>管理)] に移動し、レコーダーがストレージリストに追加されていることを確認します。

## 装置を追加し、録画ストレージとしてレコーダーを選択する

1. [設定] - [デバイス] - [デバイスの追加] を選択します。
2. リストから装置を選択し、[Add (追加)] をクリックします。デバイスがリストされていない場合は、[Manual search (手動検索)]を使用して手動で検索してください。
3. デフォルト設定を使用し、[Next (次へ)] をクリックします。
4. [Recording storage (録画ストレージ)] ドロップダウンリストからレコーダーを手動で選択し、[Install (インストール)] をクリックします。

### 注

[Automatic (自動)] を選択した場合、レコーダーは録画ストレージとして選択されません。

5. [設定] - [ストレージ] - [選択] を選択します。装置をクリックし、録画ストレージがレコーダーか確認します。

## 録画を設定

1. [Configuration > Storage > Selection (設定 > ストレージ > 選択)] に移動し、デバイスを選択します。
2. [Retention time (保存期間)]を設定します。
  - ストレージが一杯になるまで録画を保存するには、保存期間に [Unlimited (無制限)] を選択します。
  - [Limited (制限付き)] を選択して、録画を保存する最大日数を設定します。
3. [適用] をクリックします。

### 注

[Fallback recording (フォールバック録画)] はデフォルトで有効になっており、AXIS Camera Stationとレコーダーの接続が失われたときに、録画がレコーダーに保存されます。フォールバック録画を参照してください。

## デバイスを構成する

### RAIDレベルの変更

#### ▲ 注意

RAIDレベルを変更すると、ファイルシステムが再フォーマットされ、ディスクからすべてのデータが削除されます。

1. 装置のwebインターフェースで、[System (システム)] > [Storage (ストレージ)] に移動します。
2. [Tools (ツール)] で、[Change RAID level (RAIDレベルの変更)] を選択し、[Use tool (ツールを使用)] をクリックします。
3. RAIDレベルを選択し、[Next (次へ)] をクリックします。
4. [Encrypt the disk (ディスクの暗号化)] を選択し、パスワードを入力します。[Next (次へ)] をクリックします。
5. [Yes (はい)] をクリックします。
6. ステータスメッセージが右上隅に表示されます。操作が完了し、RAID configuredが表示されるまで待ってから、ページを閉じます。

### ハードドライブの交換

#### 注

静電放電を避けるために、システム内部のコンポーネントを操作するときは、常に静電マットと静電ストラップを使用することをお勧めします。

1. ベゼルの左右のネジを緩め、ベゼルを取り外します。
2. 赤色のLEDで示される故障したハードドライブを見つけます。  
RAIDに障害が発生した場合、すべてのLEDが赤色に点灯します。故障したハードドライブを特定するには、装置のwebインターフェースにアクセスし、[System (システム)] > [Storage (ストレージ)] > [Hard drive status (ハードドライブのステータス)] に移動します。
3. ハードドライブスレッド (T10) のネジを緩めます。
4. ハードドライブスレッドをハードドライブベイから引き出します。
5. ハードドライブ (T8) の4本のネジを緩めます。
6. ハードドライブをハードドライブスレッドから取り出します。
7. 新しいハードドライブをハードドライブスレッドに挿入します。
8. ハードドライブの4本のネジを締めます。
9. ハードドライブスレッドをハードドライブベイの奥まで押し込みます。
10. ハードドライブスレッドのネジを締めます。LEDインジケーターが緑色になるまで待機してください。
11. ベゼルを取り付け、ベゼルの左右のネジを締めます。

### 新しいRAIDの作成

#### ▲ 注意

新しいRAIDを作成するのは、RAIDに障害が発生した場合のみです。新しいRAIDを作成すると、ハードドライブからすべてのデータが削除されます。

1. 故障したハードドライブを交換します。を参照してください。
2. RAIDを設定します。を参照してください。
3. ビデオ管理システムで録画を設定します。「」および「」を参照してください。

## レコーダーをハードリセットする

### 重要

レコーダーは電源がオンになっている間は慎重に動かしてください。突然動かしたり衝撃を与えたりすると、ハードドライブが破損する場合があります。

### 注

- ハードリセットを行うと、IPアドレスを含むすべての設定がリセットされます。
  - ハードリセットを行っても、録画は削除されません。
1. レコーダーの電源を切る：  
レコーダーの背面にある電源ボタンを、ビープ音が聞こえるまで4～5秒間押し続けます。
  2. レコーダーがオフになるまで待ちます。
  3. コントロールボタンを押し続けます。電源ボタンを押して放し、レコーダーを起動します。コントロールボタンを15～30秒間押し、LEDインジケーターがオレンジ色に光ったらリセットボタンを放します。
  4. プロセスが完了すると、ステータスLEDが緑色に変わります。これで本製品は工場出荷時の設定にリセットされました。ネットワークに利用可能なDHCPサーバーがない場合、デバイスはリンクローカルアドレスサブネット (169.254.0.0/16) からIPアドレスを取得します。
  5. ハードドライブが暗号化されている場合は、レコーダーをリセットしてから手動でマウントする必要があります。
    - 5.1. 装置のwebインターフェースに移動します。
    - 5.2. **[System (システム)] > [Storage (ストレージ)]** に移動し、**[Mount (マウント)]** をクリックします。
    - 5.3. ハードドライブを暗号化する際に使用する暗号化パスワードを入力します。

## webインターフェース

装置のwebインターフェースにアクセスするには、Webブラウザで装置のIPアドレスを入力します。

### 注

このセクションで説明する機能と設定のサポートは、装置によって異なります。このアイコン  は、機能または設定が一部の装置でのみ使用できることを示しています。

 メインメニューの表示/非表示を切り取ります。

 リリースノートにアクセスします。

 製品のヘルプにアクセスします。

 言語を変更します。

 ライトテーマまたはダークテーマを設定します。

 ユーザーメニューは以下を含みます。

- ・ ログインしているユーザーに関する情報。
- ・  **アカウントの変更**: 現在のアカウントからログアウトし、新しいアカウントにログインします。
- ・  **ログアウト**: 現在のアカウントからログアウトします。

⋮

コンテキストメニューは以下を含みます。

- ・ **Analytics data (分析データ)**: 個人以外のブラウザーデータの共有に同意します。
- ・ **フィードバック**: フィードバックを共有して、ユーザーエクスペリエンスの向上に役立てます。
- ・ **法的情報**: Cookieおよびライセンスについての情報を表示します。
- ・ **詳細情報**: AXIS OSのバージョンやシリアル番号などの装置情報を表示します。

## ステータス

### デバイス情報

AXIS OSのバージョンとシリアル番号を含む装置情報を表示します。

**Upgrade AXIS OS (AXIS OSのアップグレード)**: 装置のソフトウェアをアップグレードします。アップグレードができる [Maintenance (メンテナンス)] ページに移動します。

### 時刻同期ステータス

装置がNTPサーバーと同期しているかどうかや、次の同期までの残り時間など、NTP同期情報を表示します。

**NTP settings (NTP設定)**: NTP設定を表示および更新します。NTPの設定を変更できる [Time and location (時刻と場所)] のページに移動します。

## セキュリティ

アクティブな装置へのアクセスのタイプ、使用されている暗号化プロトコル、未署名のアプリが許可されているかが表示されます。設定に関する推奨事項はAXIS OS強化ガイドに基づいています。

**強化ガイド:**Axis装置でのサイバーセキュリティとベストプラクティスをさらに学習できるAXIS OS強化ガイドへのリンクです。

## ストレージ

ストレージのステータス、および空き容量やディスク温度などの情報が表示されます。

**Storage settings (ストレージ設定):**クリックすると、設定を変更できるオンボードストレージのページに移動します。

## 進行中の録画

進行中の録画と指定されたストレージ容量を表示します。

**録画:** 進行中でフィルター処理された録画とそのソースを表示します。詳細については、を参照してください



録画を保存するストレージの空き容量を表示します。

## 接続されたクライアント

接続数と接続されているクライアントの数を表示します。

**View details (詳細を表示):**接続されているクライアントのリストを表示および更新します。リストには、各接続のIPアドレス、プロトコル、ポート、状態、PID/プロセスが表示されます。

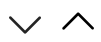
## 録画



録画を再生します。



録画の再生を停止します。



録画に関する情報とオプションを表示または非表示にします。

**Set export range (エクスポート範囲の設定):**録画の一部のみをエクスポートする場合は、時間範囲を入力します。

**Encrypt (暗号化):**エクスポートする録画のパスワードを設定する場合に選択します。エクスポートしたファイルをパスワードなしで開くことができなくなります。



クリックすると、録画が削除されます。

**Export (エクスポート):**録画の全体または一部をエクスポートします。



クリックして録画にフィルターを適用します。

**From (開始):**特定の時点以降に行われた録画を表示します。

**To (終了):**特定の時点までに行われた録画を表示します。

**ソース** ⓘ:ソースに基づいて録画を表示します。ソースはセンサーを指します。

**Event (イベント):**イベントに基づいて録画を表示します。

**ストレージ:**ストレージタイプに基づいて録画を表示します。

## アプリ



**アプリを追加:**新しいアプリをインストールします。

**さらにアプリを探す:**インストールする他のアプリを見つける。Axisアプリの概要ページに移動します。

**署名されていないアプリを許可**



:署名なしアプリのインストールを許可するには、オンにします。



AXIS OSおよびACAPアプリのセキュリティ更新プログラムを表示します。

### 注

複数のアプリを同時に実行すると、装置のパフォーマンスが影響を受ける可能性があります。

アプリ名の横にあるスイッチを使用して、アプリを起動または停止します。

**開く:**アプリの設定にアクセスする。利用可能な設定は、アプリケーションによって異なります。一部のアプリケーションでは設定が設けられていません。



コンテキストメニューに、以下のオプションが1つ以上含まれていることがあります。

- **Open-source license (オープンソースライセンス):**アプリで使用されているオープンソースライセンスに関する情報が表示されます。
- **App log (アプリのログ):**アプリイベントのログが表示されます。このログは、サポートにご連絡いただく際に役立ちます。
- **キーによるライセンスのアクティブ化:**アプリにライセンスが必要な場合は、ライセンスを有効にする必要があります。装置がインターネットにアクセスできない場合は、このオプションを使用します。  
ライセンスキーがない場合は、[axis.com/products/analytics/](https://axis.com/products/analytics/)にアクセスします。ライセンスキーを入手するには、ライセンスコードとAxis製品のシリアル番号が必要です。
- **ライセンスの自動アクティブ化:**アプリにライセンスが必要な場合は、ライセンスを有効にする必要があります。装置がインターネットにアクセスできる場合は、このオプションを使用します。ライセンスをアクティブ化するには、ライセンスコードが必要です。
- **Deactivate the license (ライセンスの非アクティブ化):**試用ライセンスから正規ライセンスに変更する場合など、別のライセンスと交換するために現在のライセンスを無効にします。ライセンスを非アクティブ化すると、ライセンスはデバイスから削除されます。
- **Settings (設定):**パラメーターを設定します。
- **削除:**デバイスからアプリを完全に削除します。ライセンスを最初に非アクティブ化しない場合、ライセンスはアクティブのままです。

## システム

### 時刻と位置

#### 日付と時刻

時刻の形式は、Webブラウザの言語設定によって異なります。

#### 注

装置の日付と時刻をNTPサーバーと同期することをお勧めします。

**Synchronization (同期):**装置の日付と時刻を同期するオプションを選択します。

- **Automatic date and time (manual NTS KE servers) (日付と時刻の自動設定 (手動NTS KEサーバー)):**DHCPサーバーに接続された安全なNTPキー確立サーバーと同期します。
  - **Manual NTS KE servers (手動NTS KEサーバー):**1台または2台のNTPサーバーのIPアドレスを入力します。2台のNTPサーバーを使用すると、両方からの入力に基づいて装置が同期し、時刻を調整します。
  - **Trusted NTS KE CA certificates (信頼されたNTS KE CA証明書):**安全なNTS KE時刻同期に使用する信頼できるCA証明書を選択するか、なしのままにします。
  - **Max NTP poll time (最長NTPポーリング時間):**装置がNTPサーバーをポーリングして最新の時刻を取得するまでの最長待機時間を選択します。
  - **Min NTP poll time (最短NTPポーリング時間):**装置がNTPサーバーをポーリングして最新の時刻を取得するまでの最短待機時間を選択します。
- **Automatic date and time (NTP servers using DHCP) (日付と時刻の自動設定 (DHCPを使用したNTPサーバー)):**DHCPサーバーに接続されたNTPサーバーと同期します。
  - **Fallback NTP servers (フォールバックNTPサーバー):**1台または2台のフォールバックサーバーのIPアドレスを入力します。
  - **Max NTP poll time (最長NTPポーリング時間):**装置がNTPサーバーをポーリングして最新の時刻を取得するまでの最長待機時間を選択します。
  - **Min NTP poll time (最短NTPポーリング時間):**装置がNTPサーバーをポーリングして最新の時刻を取得するまでの最短待機時間を選択します。
- **Automatic date and time (manual NTP servers) (日付と時刻の自動設定 (手動NTPサーバー)):**選択したNTPサーバーと同期します。
  - **Manual NTP servers (手動NTPサーバー):**1台または2台のNTPサーバーのIPアドレスを入力します。2台のNTPサーバーを使用すると、両方からの入力に基づいて装置が同期し、時刻を調整します。
  - **Max NTP poll time (最長NTPポーリング時間):**装置がNTPサーバーをポーリングして最新の時刻を取得するまでの最長待機時間を選択します。
  - **Min NTP poll time (最短NTPポーリング時間):**装置がNTPサーバーをポーリングして最新の時刻を取得するまでの最短待機時間を選択します。
- **Custom date and time (日付と時刻のカスタム設定):**日付と時刻を手動で設定する[Get from system (システムから取得)]をクリックして、コンピューターまたはモバイル装置から日付と時刻の設定を1回取得します。

**タイムゾーン:**使用するタイムゾーンを選択します。時刻が夏時間と標準時間に合わせて自動的に調整されます。

- **DHCP:**DHCPサーバーのタイムゾーンを採用します。このオプションを選択する前に、装置がDHCPサーバーに接続されている必要があります。
- **手動:**ドロップダウンリストからタイムゾーンを選択します。

#### 注

システムは、すべての録画、ログ、およびシステム設定で日付と時刻の設定を使用します。

## ネットワーク

### IPv4

**Assign IPv4 automatically (IPv4自動割り当て):** ネットワークルーターが自動的にデバイスにIPアドレスを割り当てる場合に選択します。ほとんどのネットワークでは、自動IP (DHCP) をお勧めします。

**IP address (IPアドレス):** 装置の固有のIPアドレスを入力します。孤立したネットワークの内部であれば、アドレスの重複がないことを条件に、静的なIPアドレスを自由に割り当てるができます。アドレスの重複を避けるため、固定IPアドレスを割り当てる前に、ネットワーク管理者に連絡することを推奨します。

**サブネットマスク:** サブネットマスクを入力して、ローカルエリアネットワーク内部のアドレスを定義します。ローカルエリアネットワークの外部のアドレスは、ルーターを経由します。

**Router (ルーター):** さまざまなネットワークやネットワークセグメントに接続された装置を接続するために使用するデフォルトルーター (ゲートウェイ) のIPアドレスを入力します。

**Fallback to static IP address if DHCP isn't available (DHCPが利用できない場合は固定IPアドレスにフォールバックする):** DHCPが利用できず、IPアドレスを自動的に割り当てるができない場合に、フォールバックとして使用する固定IPアドレスを追加するときに選択します。

#### 注

DHCPが使用できず、装置が静的アドレスのフォールバックを使用する場合、静的アドレスは限定された範囲で設定されます。

### IPv6

**Assign IPv6 automatically (IPv6自動割り当て):** IPv6をオンにし、ネットワークルーターに自動的に装置にIPアドレスを割り当てさせる場合に選択します。

## ホスト名

**Assign hostname automatically (ホスト名自動割り当て):** ネットワークルーターに自動的に装置にホスト名を割り当てさせる場合に選択します。

**ホスト名:** 装置にアクセスする別の方法として使用するホスト名を手動で入力します。サーバーレポートとシステムログはホスト名を使用します。使用できる文字は、A～Z、a～z、0～9、-、\_です。

**DNSの動的更新:** IPアドレスの変更時に、デバイスでのドメインネームサーバーレコードの自動更新が可能となります。

**DNS名の登録:** デバイスのIPアドレスを指す一意のドメイン名を入力します。使用できる文字は、A～Z、a～z、0～9、-、\_です。

**TTL:** TTL (Time to Live) とは、DNSレコードの更新が必要となるまでの有効期間を指します。

## DNSサーバー

**Assign DNS automatically (DNS自動割り当て):**DHCPサーバーに自動的に装置に検索ドメインとDNSサーバーアドレスを割り当てさせる場合に選択します。ほとんどのネットワークでは、自動DNS (DHCP) をお勧めします。

**Search domains (検索ドメイン):**完全修飾でないホスト名を使用する場合は、[Add search domain (検索ドメインの追加)] をクリックし、装置が使用するホスト名を検索するドメインを入力します。

**DNS servers (DNSサーバー):**[Add DNS server (DNSサーバーを追加)] をクリックして、DNSサーバーのIPアドレスを入力します。このサーバーは、ホスト名からローカルネットワーク上のIPアドレスへの変換を行います。

## HTTPとHTTPS

HTTPSは、ユーザーからのページ要求とWebサーバーから返されたページの暗号化を提供するプロトコルです。サーバーの真正性(サーバーが本物であること)を保証するHTTPS証明書が使用されます。

デバイスでHTTPSを使用するには、HTTPS証明書をインストールする必要があります。[System (システム) > Security (セキュリティ)] に移動し、証明書の作成とインストールを行います。

**Allow access through (次によってアクセスを許可):**ユーザーが [HTTP]、[HTTPS]、または [HTTP and HTTPS (HTTPおよびHTTPS)] プロトコルを介して装置に接続することを許可するかどうかを選択します。

### 注

暗号化されたWebページをHTTPS経由で表示する場合、特に初めてページを要求するとき、パフォーマンスが低下することがあります。

**HTTP port (HTTPポート):**使用するHTTPポートを入力します。装置はポート80または1024～65535の範囲のポートを許可します。管理者としてログインしている場合は、1～1023の範囲の任意のポートを入力することもできます。この範囲のポートを使用すると、警告が表示されます。

**HTTPS port (HTTPSポート):**使用するHTTPSポートを入力します。装置はポート443または1024～65535の範囲のポートを許可します。管理者としてログインしている場合は、1～1023の範囲の任意のポートを入力することもできます。この範囲のポートを使用すると、警告が表示されます。

**Certificate (証明書):**装置のHTTPSを有効にする証明書を選択します。

## ネットワーク検出プロトコル

**Bonjour®:** オンにしてネットワーク上で自動検出を可能にします。

**Bonjour名:** ネットワークで表示されるフレンドリ名を入力します。デフォルト名はデバイス名とMACアドレスです。

**UPnP®:** オンにしてネットワーク上で自動検出を可能にします。

**UPnP名:** ネットワークで表示されるフレンドリ名を入力します。デフォルト名はデバイス名とMACアドレスです。

**WS-Discovery:** オンにしてネットワーク上で自動検出を可能にします。

**LLDP and CDP (LLDPおよびCDP):** オンにしてネットワーク上で自動検出を可能にします。LLDPとCDPをオフにすると、PoE電力ネゴシエーションに影響する可能性があります。PoE電力ネゴシエーションに関する問題を解決するには、PoEスイッチをハードウェアPoE電力ネゴシエーションのみに設定してください。

## グローバルプロキシ

**Https proxy (HTTP プロキシ):**許可された形式に従って、グローバルプロキシホストまたは IP アドレスを指定します。

**Https proxy (HTTPS プロキシ):**許可された形式に従って、グローバルプロキシホストまたは IP アドレスを指定します。

http および https プロキシで許可されるフォーマット:

- `http(s)://host:port`
- `http(s)://user@host:port`
- `http(s)://user:pass@host:port`

**注**

装置を再起動し、グローバルプロキシ設定を適用します。

**No proxy (プロキシなし):**グローバルプロキシをバイパスするには、**No proxy (プロキシなし)**を使用します。リスト内のオプションのいずれかを入力するか、コンマで区切って複数入力します。

- 空白にする
- IP アドレスを指定する
- CIDR 形式で IP アドレスを指定する
- ドメイン名を指定する (`www.<ドメイン名>.com` など)
- 特定のドメイン内のすべてのサブドメインを指定する (`<ドメイン名>.com` など)

## ワンクリックによるクラウド接続

One-Click cloud connection (O3C) と O3C サービスを共に使用すると、インターネットを介して、ライブビデオや録画ビデオにどこからでも簡単かつ安全にアクセスできます。詳細については、[axis.com/end-to-end-solutions/hosted-services](https://axis.com/end-to-end-solutions/hosted-services) を参照してください。

### Allow O3C (O3Cを許可):

- **[ワンクリック]:**デフォルトの選択肢です。O3Cに接続するには、デバイスのコントロールボタンを押してください。ボタンの押し方は、デバイスモデルにより異なります。一度押して離し、ステータスLEDが点滅するまで待つか、またはステータスLEDが点滅するまで押し続けてください。**[常時]**を有効にして接続を維持するには、24時間以内にこのデバイスをO3Cサービスに登録してください。登録しないと、このデバイスはO3Cから切断されます。
- **[常時]:**デバイスは、インターネットを介してO3Cサービスへの接続を継続的に試行します。一度デバイスを登録すれば、常時接続された状態になります。コントロールボタンに手が届かない場合は、このオプションを使用します。
- **[なし]:**O3Cを切断します。

**Proxy settings (プロキシ設定) :** 必要な場合は、プロキシサーバーに接続するためのプロキシ設定を入力します。

**[ホスト]:**プロキシサーバーのアドレスを入力します。

**ポート:**アクセスに使用するポート番号を入力します。

**[ログイン] と [パスワード]:**必要な場合は、プロキシサーバーのユーザー名とパスワードを入力します。

### Authentication method (認証方式):

- **[ベーシック]:**この方法は、HTTP用の最も互換性のある認証方式です。ユーザー名とパスワードを暗号化せずにサーバーに送信するため、**Digest (ダイジェスト)** 方式よりも安全性が低くなります。
- **[ダイジェスト]:**この認証方式は、常に暗号化されたパスワードをネットワークに送信するため、高いセキュリティレベルが得られます。
- **[オート]:**このオプションを使用すると、デバイスはサポートされている方法に応じて認証方法を選択できます。**ダイジェスト**方式が**ベーシック**方式より優先されます。

**Owner authentication key (OAK) (オーナー認証キー、OAK) :** **[Get key (キーを取得)]**をクリックして、所有者認証キーを取得します。これは、デバイスがファイアウォールやプロキシを介さずにインターネットに接続されている場合にのみ可能です。

## SNMP

SNMP (Simple Network Management Protocol) を使用すると、離れた場所からネットワーク装置を管理できます。

SNMP:使用するSNMPのバージョンを選択します。

- **v1 and v2c (v1およびv2c) :**
  - **Read community (読み取りコミュニティ):**サポートされているSNMPオブジェクトすべてに読み取り専用のアクセスを行えるコミュニティ名を入力します。デフォルト値は**public**です。
  - **Write community (書き込みコミュニティ):**サポートされている (読み取り専用のものを除く) SNMPオブジェクトすべてに読み取りアクセス、書き込みアクセスの両方を行えるコミュニティ名を入力します。デフォルト設定値は**write**です。
  - **Activate traps (トラップの有効化):**オンに設定すると、トラップレポートが有効になります。デバイスはトラップを使用して、重要なイベントまたはステータス変更のメッセージを管理システムに送信します。webインターフェースでは、SNMP v1およびv2cのトラップを設定できます。SNMP v3に変更するか、SNMPをオフにすると、トラップは自動的にオフになります。SNMP v3を使用する際は、SNMP v3管理アプリケーションでトラップを設定できます。
  - **Trap address (トラップアドレス):**管理サーバーのIPアドレスまたはホスト名を入力します。
  - **Trap community (トラップコミュニティ):**装置がトラップメッセージを管理システムに送信するときに使用するコミュニティを入力します。
  - **Traps (トラップ):**
    - **Cold start (コールドスタート):**デバイスの起動時にトラップメッセージを送信します。
    - **Link up (リンクアップ):**リンクの状態が切断から接続に変わったときにトラップメッセージを送信します。
    - **Link down (リンクダウン):**リンクの状態が接続から切断に変わったときにトラップメッセージを送信します。
    - **認証失敗:**認証に失敗したときにトラップメッセージを送信します。

**注**

SNMP v1およびv2cトラップをオンにすると、すべてのAXIS Video MIBトラップが有効になります。詳細については、AXIS OSポータル > SNMPを参照してください。

- **v3:**SNMP v3は、暗号化と安全なパスワードを使用する、より安全性の高いバージョンです。SNMP v3を使用するには、HTTPSを有効化し、パスワードをHTTPSを介して送信することをお勧めします。これにより、権限のない人が暗号化されていないSNMP v1およびv2cトラップにアクセスすることも防止できます。SNMP v3を使用する際は、SNMP v3管理アプリケーションでトラップを設定できます。
  - **Password for the account "initial" (「initial」アカウントのパスワード):**  
「initial」という名前のアカウントのSNMPパスワードを入力します。HTTPSを有効化せずにパスワードを送信できますが、推奨しません。SNMP v3のパスワードは1回しか設定できません。HTTPSが有効な場合にのみ設定することをお勧めします。パスワードの設定後は、パスワードフィールドが表示されなくなります。パスワードを設定し直すには、デバイスを工場出荷時の設定にリセットする必要があります。

## ネットワークポート



クリックして、ポートの画像を表示または非表示にします。

- 画像内のポートをクリックすると、ポートリストにポートの詳細が表示されます。

### ポートリスト

- **ポート:**ポート番号。
- **PoE** ⓘ: ポートのPoEをオンまたはオフにします。
- **Network (ネットワーク):**ポートのネットワークをオンまたはオフにします。
- **Status (ステータス):**このポートに装置が接続されているかどうかを示します。
- **Friendly name (フレンドリ名):**フレンドリ名は、[**Network settings (ネットワーク設定)**] で設定します。デフォルト名は、接続された装置のモデルとメディアアクセスコントロールアドレス (MACアドレス) の組み合わせです。

## セキュリティ

### 証明書

証明書は、ネットワーク上のデバイスの認証に使用されます。この装置は、次の2種類の証明書をサポートしています。

- **Client/server Certificates (クライアント/サーバー証明書)**  
クライアント/サーバー証明書は装置のIDを認証します。自己署名証明書と認証局 (CA) 発行の証明書のどちらでも使用できます。自己署名証明書による保護は限られています。認証局発行の証明書を取得するまで利用できます。
- **CA証明書**  
CA証明書はピア証明書の認証に使用されます。たとえば、装置をIEEE 802.1Xで保護されたネットワークに接続するときに、認証サーバーのIDを検証するために使用されます。装置には、いくつかのCA証明書がプリインストールされています。

以下の形式がサポートされています:

- 証明書形式: .PEM、.CER、.PFX
- 秘密鍵形式: PKCS#1、PKCS#12

#### 重要

デバイスを工場出荷時の設定にリセットすると、すべての証明書が削除されます。プリインストールされたCA証明書は、再インストールされます。

**+** **証明書を追加:** クリックして証明書を追加します。ステップバイステップのガイドが開きます。

- **その他** : 入力または選択するフィールドをさらに表示します。
- **セキュアキーストア:** [Trusted Execution Environment (SoC TEE)]、[Secure element (セキュアエレメント)] または [Trusted Platform Module 2.0] を使用して秘密鍵を安全に保存する場合に選択します。どのセキュアキーストアを選択するかの詳細については、[help.axis.com/axis-os#cryptographic-support](https://help.axis.com/axis-os#cryptographic-support)にアクセスしてください。
- **Key type (キーのタイプ):** ドロップダウンリストから、証明書の保護に使用する暗号化アルゴリズムとしてデフォルトかその他のいずれかを選択します。

⋮

コンテキストメニューは以下を含みます。

- **Certificate information (証明書情報):** インストールされている証明書のプロパティを表示します。
- **Delete certificate (証明書の削除):** 証明書の削除。
- **Create certificate signing request (証明書の署名要求を作成する):** デジタルID証明書を申請するために登録機関に送信する証明書署名要求を作成します。

**セキュアキーストア** :

- **Trusted Execution Environment (SoC TEE):** 安全なキーストアにSoC TEEを使用する場合に選択します。
- **セキュアエレメント (CC EAL6+):** セキュアキーストアにセキュアエレメントを使用する場合に選択します。
- **Trusted Platform Module 2.0 (CC EAL4+, FIPS 140-2 Level 2):** セキュアキーストアにTPM 2.0を使用する場合に選択します。

Network access control and encryption (ネットワークのアクセスコントロールと暗号化)

## IEEE 802.1x

IEEE 802.1xはポートを使用したネットワークへの接続を制御するIEEEの標準規格で、有線およびワイヤレスのネットワークデバイスを安全に認証します。IEEE 802.1xは、EAP (Extensible Authentication Protocol) に基づいています。

IEEE 802.1xで保護されているネットワークにアクセスするネットワーク装置は、自己の証明を行う必要があります。認証は認証サーバーによって行われます。認証サーバーは通常、FreeRADIUSやMicrosoft Internet Authentication ServerなどのRADIUSサーバーです。

## IEEE 802.1AE MACsec

IEEE 802.1AE MACsecは、メディアアクセスコントロール (MAC) セキュリティのためのIEEE標準であり、メディアアクセス独立プロトコルのためのコネクションレスデータ機密性と整合性を定義しています。

## 証明書

CA証明書なしで設定されている場合、サーバー証明書の検証は無効になり、デバイスは接続先のネットワークに関係なく自己の認証を試みます。

証明書を使用する場合、Axisの実装では、装置と認証サーバーは、EAP-TLS (Extensible Authentication Protocol - Transport Layer Security) を使用してデジタル証明書で自己を認証します。

装置が証明書で保護されたネットワークにアクセスできるようにするには、署名されたクライアント証明書を装置にインストールする必要があります。

**Authentication method (認証方式):** 認証に使用するEAPタイプを選択します。

**Client certificate (クライアント証明書):** IEEE 802.1xを使用するクライアント証明書を選択します。認証サーバーは、この証明書を使用してクライアントの身元を確認します。

**CA certificates (CA証明書):** 認証サーバーの身元を確認するためのCA証明書を選択します。証明書が選択されていない場合、デバイスは、接続されているネットワークに関係なく自己を認証しようとします。

**EAP識別情報:** クライアント証明書に関連付けられているユーザーIDを入力します。

**EAPOLのバージョン:** ネットワークスイッチで使用するEAPOLのバージョンを選択します。

**Use IEEE 802.1x (IEEE 802.1xを使用):** IEEE 802.1xプロトコルを使用する場合に選択します。

これらの設定は、認証方法としてIEEE 802.1x PEAP-MSCHAPv2を使用する場合にのみ使用できます。

- **パスワード:** ユーザーIDのパスワードを入力します。
- **Peap version (Peapのバージョン):** ネットワークスイッチで使用するPeapのバージョンを選択します。
- **ラベル:** クライアントEAP暗号化を使用する場合は1を選択し、クライアントPEAP暗号化を使用する場合は2を選択します。Peapバージョン1を使用する際にネットワークスイッチが使用するラベルを選択します。

これらの設定を使用できるのは、認証方法としてIEEE 802.1ae MACsec (静的CAK/事前共有キー) を使用する場合があります。

- **Key agreement connectivity association key name (キー合意接続アソシエーションキー名):** 接続アソシエーション名 (CKN) を入力します。2~64文字 (2で割り切れる文字数) の16進文字である必要があります。CKNは、接続アソシエーションで手動で設定する必要があります。最初にMACsecを有効にするには、リンクの両端で一致している必要があります。
- **Key agreement connectivity association key (キー合意接続アソシエーションキー):** 接続アソシエーションキー (CAK) を入力します。32文字または64文字の16進数である必要

があります。CAKは、接続アソシエーションで手動で設定する必要があり、最初にMACsecを有効にするには、リンクの両端で一致する必要があります。

## ファイアウォール

**Firewall (ファイアウォール):**オンにするとファイアウォールが有効になります。

**Default Policy (デフォルトポリシー):**ルールで定義されていない接続要求をファイアウォールがどのように処理するかを選択します。

- **ACCEPT (許可):** デバイスへのすべての接続を許可します。このオプションはデフォルトで設定されています。
- **DROP (拒否):** デバイスへのすべての接続をブロックします。

デフォルトポリシーに例外を設定するために、特定のアドレス、プロトコル、ポートからデバイスへの接続を許可またはブロックするルールを作成できます。

+ **New rule (新規ルールの追加):**クリックすると、ルールを作成できます。

**Rule type (ルールタイプ):**

- **FILTER (フィルター):** ルールで定義された条件に一致するデバイスからの接続を許可またはブロックする場合に選択します。
  - **Policy (ポリシー):** ファイアウォールルールに **[Accept (許可)]** または **[Drop (拒否)]** を選択します。
  - **IP range (IP範囲):** 許可またはブロックするアドレス範囲を指定する場合に選択します。 **[Start (開始)]** と **[End (終了)]** にIPv4/IPv6を使用します。
  - **IP address (IPアドレス):** 許可またはブロックするアドレスを入力します。IPv4/IPv6またはCIDR形式を使用します。
  - **Protocol (プロトコル):** 許可またはブロックするネットワークプロトコル (TCP、UDP、または両方) を選択します。プロトコルを選択すると、ポートも指定する必要があります。
  - **MAC:** 許可またはブロックするデバイスのMACアドレスを入力します。
  - **Port range (ポート範囲):** 許可またはブロックするポート範囲を指定する場合に選択します。 **[Start (開始)]** と **[End (終了)]** にそれらを追加します。
  - **ポート:** 許可またはブロックするポート番号を入力します。ポート番号は1~65535の間で指定する必要があります。
  - **Traffic type (トラフィックタイプ):** 許可またはブロックするトラフィックタイプを選択します。
    - **UNICAST (ユニキャスト):** 1つの送信元から1つの送信先へのトラフィック。
    - **BROADCAST (ブロードキャスト):** 1つの送信元からネットワーク上のすべてのデバイスへのトラフィック。
    - **MULTICAST (マルチキャスト):** 複数の送信元から複数の送信先へのトラフィック。
- **LIMIT (制限):** ルールで定義された条件に一致するデバイスからの接続を許可しますが、過剰なトラフィックを軽減するために制限を適用する場合に選択します。
  - **IP range (IP範囲):** 許可またはブロックするアドレス範囲を指定する場合に選択します。 **[Start (開始)]** と **[End (終了)]** にIPv4/IPv6を使用します。
  - **IP address (IPアドレス):** 許可またはブロックするアドレスを入力します。IPv4/IPv6またはCIDR形式を使用します。
  - **Protocol (プロトコル):** 許可またはブロックするネットワークプロトコル (TCP、UDP、または両方) を選択します。プロトコルを選択すると、ポートも指定する必要があります。
  - **MAC:** 許可またはブロックするデバイスのMACアドレスを入力します。
  - **Port range (ポート範囲):** 許可またはブロックするポート範囲を指定する場合に選択します。 **[Start (開始)]** と **[End (終了)]** にそれらを追加します。
  - **ポート:** 許可またはブロックするポート番号を入力します。ポート番号は1~65535の間で指定する必要があります。

- **Unit (単位):**許可またはブロックする接続のタイプを選択します。
- **Period (期間):**[Amount (量)] に関連する期間を選択します。
- **Amount (量):**設定した **[Period (期間)]** 内にデバイスの接続を許可する最大回数を設定します。上限は65535です。
- **Burst (バースト):**設定した **[Period (期間)]** に **[Amount (量)]** を1回超えることを許可する接続の数を入力します。—この数に達すると、設定した期間に設定した量のみ許可されます。
- **Traffic type (トラフィックタイプ):**許可またはブロックするトラフィックタイプを選択します。
  - **UNICAST (ユニキャスト):**1つの送信元から1つの送信先へのトラフィック。
  - **BROADCAST (ブロードキャスト):**1つの送信元からネットワーク上のすべてのデバイスへのトラフィック。
  - **MULTICAST (マルチキャスト):**複数の送信元から複数の送信先へのトラフィック。

**Test rules (テストルール):**クリックして、定義したテストを追加します。

- **Time in seconds (テスト時間、秒):**ルールのテストに制限時間を設定します。
- **Roll back (ロールバック):**クリックすると、ルールをテストする前にファイアウォールを前の状態にロールバックします。
- **Apply rules (ルールの適用):**クリックすると、テストなしでルールが有効になります。これは推奨されません。

## カスタム署名付きAXIS OS証明書

Axisのテストソフトウェアまたはその他のカスタムソフトウェアを装置にインストールするには、カスタム署名付きAXIS OS証明書が必要です。証明書は、ソフトウェアが装置の所有者とAxisの両方によって承認されたことを証明します。ソフトウェアは、一意のシリアル番号とチップIDで識別される特定の装置でのみ実行できます。署名用のキーはAxisが保有しており、カスタム署名付きAXIS OS証明書はAxisしか作成できません。

**Install (インストール):**クリックして、証明書をインストールします。ソフトウェアをインストールする前に、証明書をインストールする必要があります。

- ⋮ コンテキストメニューは以下を含みます。
  - **Delete certificate (証明書の削除):**証明書の削除。

## アカウント

### アカウント

**+** **アカウントを追加:**クリックして、新しいアカウントを追加します。最大100個のアカウントを追加できます。

**Account (アカウント):**固有のアカウント名を入力します。

**New password (新しいパスワード):**アカウントのパスワードを入力します。パスワードの長は1~64文字である必要があります。印刷可能なASCII文字 (コード32~126) のみを使用できます。これには、英数字、句読点、および一部の記号が含まれます。

**Repeat password (パスワードの再入力):**同じパスワードを再び入力します。

**Privileges (権限):**

- **Administrator (管理者):**すべての設定へ全面的なアクセス権をもっています。管理者は他のアカウントを追加、更新、削除することもできます。
- **Operator (オペレーター):**次の操作を除く、すべての設定へのアクセス権があります。
  - すべての [System settings (システムの設定)]。
- **Viewer (閲覧者):**次のアクセス権を持っています:
  - ビデオストリームのスナップショットを見て撮影する。
  - 録画を再生およびエクスポートする。
  - PTZアカウントアクセスをパン、チルト、ズームに使用します。

⋮ コンテキストメニューは以下を含みます。

**Update account (アカウントの更新):**アカウントのプロパティを編集します。

**Delete account (アカウントの削除):**アカウントを削除します。rootアカウントは削除できません。

## SSHアカウント

**+** **Add SSH account (SSHアカウントを追加):**クリックして、新しいSSHアカウントを追加します。

- **Enable SSH (SSHの有効化):**SSHサービスを使用する場合は、オンにします。

**Account (アカウント):**固有のアカウント名を入力します。

**New password (新しいパスワード):**アカウントのパスワードを入力します。パスワードの長は1~64文字である必要があります。印刷可能なASCII文字 (コード32~126) のみを使用できます。これには、英数字、句読点、および一部の記号が含まれます。

**Repeat password (パスワードの再入力):**同じパスワードを再び入力します。

**コメント:**コメントを入力します (オプション)。

⋮ コンテキストメニューは以下を含みます。

**Update SSH account (SSHアカウントの更新):**アカウントのプロパティを編集します。

**Delete SSH account (SSHアカウントの削除):**アカウントを削除します。rootアカウントは削除できません。

## Virtual host (仮想ホスト)

✚ **Add virtual host (仮想ホストを追加)**:クリックして、新しい仮想ホストを追加します。

**Enabled (有効)**:この仮想ホストを使用するには、選択します。

**Server name (サーバー名)**:サーバーの名前を入力します。数字0～9、文字A～Z、ハイフン (-) のみを使用します。

**ポート**:サーバーが接続されているポートを入力します。

**タイプ**:使用する認証のタイプを選択します。[Basic (ベーシック)]、[Digest (ダイジェスト)]、[Open ID] から選択します。

⋮ コンテキストメニューは以下を含みます。

- **Update (更新)**:仮想ホストを更新します。
- **削除**:仮想ホストを削除します。

**Disabled (無効)**:サーバーが無効になっています。

## クライアント認証情報付与設定

**Admin claim (管理者請求)**:管理者権限の値を入力します。

**Verification URL (検証URL)**: APIエンドポイント認証用のWebリンクを入力します。

**Operator claim (オペレーター請求)**:オペレーター権限の値を入力します。

**Require claim (必須請求)**:トークンに含めるデータを入力します。

**Viewer claim (閲覧者請求)**:閲覧者権限の値を入力します。

**Save (保存)**:クリックして値を保存します。

## OpenID設定

### 重要

OpenIDを使用してサインインできない場合は、OpenIDを設定したときに使用したダイジェストまたはベーシック認証情報を使用してサインインします。

**Client ID (クライアントID)**: OpenIDユーザー名を入力します。

**Outgoing Proxy (発信プロキシ)**: OpenID接続でプロキシサーバーを使用する場合は、プロキシアドレスを入力します。

**Admin claim (管理者請求)**: 管理者権限の値を入力します。

**Provider URL (プロバイダーURL)**: APIエンドポイント認証用のWebリンクを入力します。形式はhttps://[URLを挿入]/.well-known/openid-configurationとしてください。

**Operator claim (オペレーター請求)**: オペレーター権限の値を入力します。

**Require claim (必須請求)**: トークンに含めるデータを入力します。

**Viewer claim (閲覧者請求)**: 閲覧者権限の値を入力します。

**Remote user (リモートユーザー)**: リモートユーザーを識別する値を入力します。これは、装置のwebインターフェースに現在のユーザーを表示するのに役立ちます。

**Scopes (スコープ)**: トークンの一部となるオプションのスコープです。

**Client secret (クライアントシークレット)**: OpenIDのパスワードを入力します。

**Save (保存)**: クリックして、OpenIDの値を保存します。

**Enable OpenID (OpenIDの有効化)**: 現在の接続を閉じ、プロバイダーURLからの装置認証を許可する場合は、オンにします。

## イベント

### ルール

ルールは、製品がアクションを実行するためのトリガーとなる条件を定義します。このリストには、本製品で現在設定されているすべてのルールが表示されます。

#### 注

最大256のアクションルールを作成できます。

**+** **ルールを追加:**ルールを作成します。

**名前:**アクションルールの名前を入力します。

**Wait between actions (アクション間の待ち時間):**ルールを有効化する最短の時間間隔 (hh:mm:ss) を入力します。たとえば、デイナイトモードの条件によってルールが有効になる場合、このパラメーターを設定することで、日の出や日没時のわずかな光の変化によりルールが反復的に有効になるのを避けられます。

**Condition (条件):**リストから条件を選択します。装置がアクションを実行するためには、条件を満たす必要があります。複数の条件が定義されている場合、すべての条件が満たされたときにアクションがトリガーされます。特定の条件については、「イベントのルールの使用開始」を参照してください。

**Use this condition as a trigger (この条件をトリガーとして使用する):**この最初の条件を開始トリガーとしてのみ機能させる場合に選択します。つまり、いったんルールが有効になると、最初の条件の状態に関わらず、他のすべての条件が満たされている限り有効のままになります。このオプションを選択しない場合、ルールは単純にすべての条件が満たされたときに有効化されます。

**Invert this condition (この条件を逆にする):**選択した条件とは逆の条件にする場合に選択します。

**+** **条件を追加:**新たに条件を追加する場合にクリックします。

**Action (アクション):**リストからアクションを選択し、必要な情報を入力します。特定のアクションについては、「イベントのルールの使用開始」を参照してください。

## 送信先

イベントについて受信者に通知したり、ファイルを送信したりするように装置を設定できます。

### 注

FTPまたはSFTPを使用するように装置を設定した場合、ファイル名に付加される固有のシーケンス番号を変更したり削除したりしないでください。その場合、イベントごとに1つの画像しか送信できません。

このリストには、製品で現在設定されているすべての送信先とそれらの設定に関する情報が示されます。

### 注

最大20名の送信先を作成できます。



送信先を追加:クリックすると、送信先を追加できます。

名前:送信先の名前を入力します。

タイプ:リストから選択します:

- **FTP** 
  - **[ホスト]:**サーバーのIPアドレスまたはホスト名を入力します。ホスト名を入力した場合は、必ず、**[System (システム)] > Network (ネットワーク) > IPv4 and IPv6 (IPv4 と IPv6)]** でDNS サーバーを指定します。
  - **ポート:**FTPサーバーに使用するポート番号。デフォルトは21です。
  - **Folder (フォルダー):**ファイルを保存するディレクトリのパスを入力します。FTPサーバー上に存在しないディレクトリを指定すると、ファイルのアップロード時にエラーメッセージが表示されます。
  - **Username (ユーザー名):**ログインのユーザー名を入力します。
  - **パスワード:**ログインのパスワードを入力します。
  - **Use temporary file name (一時ファイル名を使用する):**選択すると、自動的に生成された一時的なファイル名でファイルがアップロードされます。アップロードが完了した時点で、ファイル名が目的の名前に変更されます。アップロードが中止/中断されても、破損したファイルが発生することはありません。ただし、一時ファイルが残る可能性があります。これにより、目的の名前を持つすべてのファイルが正常であると確信できます。
  - **Use passive FTP (パッシブFTPを使用する):**通常は、製品がFTPサーバーに要求を送ることでデータ接続が開かれます。この接続では、対象サーバーとのFTP制御用接続とデータ用接続の両方が装置側から開かれます。一般に、装置と対象FTPサーバーの間にファイアウォールがある場合に必要となります。
- **HTTP**
  - **URL:**HTTPサーバーのネットワークアドレスと、要求の処理を行うスクリプトを入力します。たとえば、`http://192.168.254.10/cgi-bin/notify.cgi`と入力します。
  - **Username (ユーザー名):**ログインのユーザー名を入力します。
  - **パスワード:**ログインのパスワードを入力します。
  - **Proxy (プロキシ):**HTTPサーバーに接続するためにプロキシサーバーを渡す必要がある場合は、これをオンにし、必要な情報を入力します。
- **HTTPS**
  - **URL:**HTTPSサーバーのネットワークアドレスと、要求の処理を行うスクリプトを入力します。たとえば、`https://192.168.254.10/cgi-bin/notify.cgi`と入力します。
  - **Validate server certificate (サーバー証明書を検証する):**HTTPSサーバーが作成した証明書を検証する場合にオンにします。
  - **Username (ユーザー名):**ログインのユーザー名を入力します。
  - **パスワード:**ログインのパスワードを入力します。
  - **Proxy (プロキシ):**HTTPSサーバーに接続するためにプロキシサーバーを渡す必要がある場合にオンにして、必要な情報を入力します。
- **ネットワークストレージ** 

NAS (network-attached storage) などのネットワークストレージを追加し、それを録画ファイルの保存先として使用することができます。ファイルは.mkv (Matroska) 形式で保存されます。

  - **[ホスト]:**ネットワークストレージのIPアドレスまたはホスト名を入力します。
  - **共有:**ホスト上の共有の名を入力します。

- **Folder (フォルダー):** ファイルを保存するディレクトリのパスを入力します。
- **Username (ユーザー名):** ログインのユーザー名を入力します。
- **パスワード:** ログインのパスワードを入力します。
- **SFTP** 
  - **[ホスト]:** サーバーのIPアドレスまたはホスト名を入力します。ホスト名を入力した場合は、必ず、[System (システム)] > Network (ネットワーク) > IPv4 and IPv6 (IPv4 と IPv6)] で DNS サーバーを指定します。
  - **ポート:** SFTPサーバーに使用するポート番号。デフォルトは22です。
  - **Folder (フォルダー):** ファイルを保存するディレクトリのパスを入力します。SFTPサーバー上に存在しないディレクトリを指定すると、ファイルのアップロード時にエラーメッセージが表示されます。
  - **Username (ユーザー名):** ログインのユーザー名を入力します。
  - **パスワード:** ログインのパスワードを入力します。
  - **SSH host public key type (MD5) (SSHホスト公開鍵タイプ (MD5)):** リモートホストの公開鍵のフィンガープリント (32桁の16進数) を入力します。SFTPクライアントは、RSA、DSA、ECDSA、およびED25519ホストキータイプによるSSH-2を使用するSFTPサーバーをサポートします。RSAは、ネゴシエーション時の推奨方式です。その後には、ECDSA、ED25519、DSAが続きます。SFTPサーバーで使用されている正しいMD5ホストキーを入力してください。AxisデバイスはMD5とSHA-256の両方のハッシュキーをサポートしていますが、MD5よりもセキュリティが強いため、SHA-256を使用することをお勧めします。AxisデバイスでSFTPサーバーを設定する方法の詳細については、AXIS OSポータルにアクセスしてください。
  - **SSH host public key type (SHA256) (SSHホスト公開鍵タイプ (SHA256)):** リモートホストの公開鍵のフィンガープリント (43桁のBase64エンコード文字列) を入力します。SFTPクライアントは、RSA、DSA、ECDSA、およびED25519ホストキータイプによるSSH-2を使用するSFTPサーバーをサポートします。RSAは、ネゴシエーション時の推奨方式です。その後には、ECDSA、ED25519、DSAが続きます。SFTPサーバーで使用されている正しいMD5ホストキーを入力してください。AxisデバイスはMD5とSHA-256の両方のハッシュキーをサポートしていますが、MD5よりもセキュリティが強いため、SHA-256を使用することをお勧めします。AxisデバイスでSFTPサーバーを設定する方法の詳細については、AXIS OSポータルにアクセスしてください。
  - **Use temporary file name (一時ファイル名を使用する):** 選択すると、自動的に生成された一時的なファイル名でファイルがアップロードされます。アップロードが完了した時点で、ファイル名が目的の名前に変更されます。アップロードが中止/中断されても、ファイルが破損することはありません。ただし、一時ファイルが残る可能性があります。これにより、目的の名前を持つすべてのファイルが正常であると確信できます。
- **SIPまたはVMS**  :
  - **SIP:** 選択してSIP呼び出しを行います。
  - **VMS:** 選択してVMS呼び出しを行います。
  - **送信元のSIPアカウント:** リストから選択します。
  - **送信先のSIPアドレス:** SIPアドレスを入力します。
  - **テスト:** クリックして、呼び出しの設定が機能することをテストします。
- **電子メール**
  - **電子メールの送信先:** 電子メールの宛先のアドレスを入力します。複数のアドレスを入力するには、カンマで区切ります。
  - **電子メールの送信元:** 送信側サーバーのメールアドレスを入力します。

- **Username (ユーザー名):**メールサーバーのユーザー名を入力します。認証の必要のないメールサーバーの場合は、このフィールドを空にします。
- **パスワード:**メールサーバーのパスワードを入力します。認証の必要のないメールサーバーの場合は、このフィールドを空にします。
- **Email server (SMTP) (電子メールサーバー (SMTP)):**SMTPサーバーの名前 (smtp.gmail.com、smtp.mail.yahoo.comなど) を入力します。
- **ポート:**SMTPサーバーのポート番号を0~65535の範囲で入力します。デフォルト設定値は587です。
- **[暗号化]:**暗号化を使用するには、SSL または TLS を選択します。
- **Validate server certificate (サーバー証明書を検証する):**暗号化を使用している場合にこれを選択すると、装置の身元を検証できます。この証明書は、自己署名または認証局 (CA) 発行の証明書のどちらでも可能です。
- **POP authentication (POP認証):**オンにすると、POPサーバーの名前 (pop.gmail.comなど) を入力できます。

**注**

一部の電子メールプロバイダーでは、大量の添付ファイルやスケジュール設定済みメールなどがセキュリティフィルターによって受信または表示できないようになっています。電子メールプロバイダーのセキュリティポリシーを確認し、メールアカウントのロックや、必要な電子メールの不着などが起こらないようにしてください。

• **TCP**

- **[ホスト]:**サーバーのIPアドレスまたはホスト名を入力します。ホスト名を入力した場合は、必ず、**[System (システム) > Network (ネットワーク) > IPv4 and IPv6 (IPv4 と IPv6)]** で DNS サーバーを指定します。
- **ポート:**サーバーへのアクセスに使用したポート番号を入力します。

**Test (テスト):**クリックすると、セットアップをテストすることができます。



コンテキストメニューは以下を含みます。

**View recipient (送信先の表示):**クリックすると、すべての送信先の詳細が表示されます。

**Copy recipient (送信先のコピー):**クリックすると、送信先をコピーできます。コピーする際、新しい送信先に変更を加えることができます。

**Delete recipient (送信先の削除):**クリックすると、受信者が完全に削除されます。

## スケジュール

スケジュールとパルスは、ルールで条件として使用することができます。このリストには、製品で現在設定されているすべてのスケジュールとパルス、およびそれらの設定に関する情報が示されます。



**スケジュールを追加:**クリックすると、スケジュールやパルスを作成できます。

## 手動トリガー

手動トリガーを使用すると、ルールを手動でトリガーできます。手動トリガーは、本製品の設置、設定中にアクションを検証する目的などで使用します。

## ストレージ

### オンボードストレージ

## RAID

- **Free (空き容量):**ディスクの空き容量。
- **Status (ステータス):**ディスクがマウントされているかどうか。
- **File system (ファイルシステム):**ディスクに使用されるファイルシステム。
- **Encrypted (暗号化):**ディスクが暗号化されているかどうか。
- **Temperature (温度):**ハードウェアの現在の温度。
- **Overall health test (総合的な健全性テスト):**ディスクの状態を確認した結果。
- **RAID level (RAIDレベル):**ストレージに使用されているRAIDレベル。サポートされているRAIDレベルは0、1、5、6、10です。
- **RAID status (RAIDステータス):**ストレージのRAIDステータス。表示される値は **[Online (オンライン)]**、**[Degraded (劣化)]**、**[Syncing (同期中)]**、または **[Failed (失敗)]** です。同期処理には数時間かかる場合があります。

## ツール

### 注

次に示すツールを実行するときは、操作が完了するまでページを閉じないようにしてください。

- **Check (チェック):**ストレージデバイスにエラーがないかを確認し、ある場合は自動修復を試みます。
- **Repair (修復):**ストレージ装置を修復します。修復中、アクティブな録画は一時停止されます。ストレージデバイスを修復すると、データが失われる場合があります。
- **Format (形式):**すべての録画を消去し、ストレージデバイスをフォーマットします。ファイルシステムを選択します。
- **Encrypt (暗号化):**保存されているデータを暗号化します。ストレージ装置上のすべてのファイルは消去されます。
- **Decrypt (復号化):**保存されているデータを複合化します。ストレージ装置上のすべてのファイルは消去されます。
- **Change password (パスワードの変更):**ディスク暗号化のパスワードを変更します。パスワードを変更しても、進行中の録画には影響しません。
- **Change RAID level (RAIDレベルの変更):**すべての録画を消去し、ストレージのRAIDレベルを変更します。
- **Use tool (ツールを使用)**をクリックして、選択したツールを実行します。

**Hard drive status (ハードドライブのステータス):**クリックすると、ハードドライブのステータス、容量、シリアル番号が表示されます。

**Write protect (書き込み禁止):**書き込み保護をオンにして、ストレージデバイスが上書きされないように保護します。

## ログ

### レポートとログ

## レポート

- **View the device server report (デバイスサーバーレポートを表示):**製品ステータスに関する情報をポップアップウィンドウに表示します。アクセスログは自動的にサーバーレポートに含まれます。
- **Download the device server report (デバイスサーバーレポートをダウンロード):**これによって、UTF-8形式で作成された完全なサーバーレポートのテキストファイルと、現在のライブビュー画像のスナップショットを収めた.zipファイルが生成されます。サポートに連絡する際には、必ずサーバーレポート.zipファイルを含めてください。
- **Download the crash report (クラッシュレポートをダウンロード):**サーバーの状態に関する詳細情報が付随したアーカイブをダウンロードします。クラッシュレポートには、サーバーレポートに記載されている情報と詳細なバグ情報が含まれます。レポートには、ネットワークトレースなどの機密情報が含まれている場合があります。レポートの生成には数分かかることがあります。

## ログ

- **View the system log (システムログを表示):**装置の起動、警告、重要なメッセージなど、システムイベントに関する情報をクリックして表示します。
- **View the access log (アクセスログを表示):**誤ったログインパスワードの使用など、本装置への失敗したアクセスをすべてクリックして表示します。
- **View the audit log (監査ログを表示):**クリックすると、ユーザーやシステムのアクティビティに関する情報 (認証の成否や設定など) が表示されます。

## リモートシステムログ

syslogはメッセージログ作成の標準です。これによって、メッセージを生成するソフトウェア、メッセージを保存するシステム、およびそれらを報告して分析するソフトウェアを分離することができます。各メッセージには、メッセージを生成したソフトウェアの種類を示す設備コードがラベル付けされ、重大度レベルが割り当てられます。



**サーバー:**クリックして新規サーバーを追加します。

**[ホスト]:**サーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

**Format (形式):**使用するsyslogメッセージの形式を選択します。

- Axis
- RFC 3164
- RFC 5424

**Protocol (プロトコル):**使用するプロトコルを選択します。

- UDP (デフォルトポートは514)
- TCP (デフォルトポートは601)
- TLS (デフォルトポートは6514)

**ポート:**別のポートを使用する場合は、ポート番号を編集します。

**重大度:**トリガー時に送信するメッセージを選択します。

**タイプ:**送信するログのタイプを選択します。

**Test server setup (テストサーバーセットアップ):**設定を保存する前に、すべてのサーバーにテストメッセージを送信します。

**CA証明書設定:**現在の設定を参照するか、証明書を追加します。

## プレーン設定

[Plain Config] (プレーン設定) は、Axis装置の設定経験のある上級ユーザー向けのページです。ほとんどのパラメーターは、このページから設定、編集することができます。

## メンテナンス

### メンテナンス

**Restart (再起動):** デバイスを再起動します。再起動しても、現在の設定には影響がありません。実行中のアプリケーションは自動的に再起動されます。

**Restore (リストア):** ほとんどの設定が工場出荷時の値に戻ります。その後、装置とアプリを再設定し、プリインストールしなかったアプリを再インストールし、イベントやプリセットを再作成する必要があります。

#### 重要

復元後に保存される設定は以下の場合のみです。

- ブートプロトコル (DHCPまたは静的)
- 静的IPアドレス
- デフォルトのルータ
- サブネットマスク
- 802.1Xの設定
- O3C settings (O3Cの設定)
- DNSサーバーIPアドレス

**Factory default (工場出荷時設定):** すべての設定を工場出荷時の値に戻します。その後、装置にアクセス可能なIPアドレスをリセットする必要があります。

#### 注

検証済みのソフトウェアのみを装置にインストールするために、すべてのAxisの装置のソフトウェアにデジタル署名が付け加えられます。これによって、Axis装置の全体的なサイバーセキュリティの最低ラインがさらに上がります。詳細については、[axis.com](https://axis.com)でホワイトペーパー「Axis Edge Vault」を参照してください。

**AXIS OS upgrade (AXIS OSのアップグレード):** AXIS OSの新しいバージョンにアップグレードします。新しいリリースには、機能の改善やバグの修正、まったく新しい機能が含まれています。常にAXIS OSの最新のリリースを使用することをお勧めします。最新のリリースをダウンロードするには、[axis.com/support/](https://axis.com/support/)に移動します。

アップグレード時には、以下の3つのオプションから選択できます。

- **Standard upgrade (標準アップグレード):** AXIS OSの新しいバージョンにアップグレードします。
- **Factory default (工場出荷時設定):** アップグレードすると、すべての設定が工場出荷時の値に戻ります。このオプションを選択すると、アップグレード後にAXIS OSを以前のバージョンに戻すことはできません。
- **Automatic rollback (自動ロールバック):** 設定した時間内にアップグレードを行い、アップグレードを確認します。確認しない場合、装置はAXIS OSの以前のバージョンに戻されます。

**AXIS OS rollback (AXIS OSのロールバック):** AXIS OSの以前にインストールしたバージョンに戻します。

## トラブルシューティング

**Reset PTR (PTRのリセット)**  :何らかの理由で、パン、チルト、またはロールの設定が想定どおりに機能していない場合は、PTRをリセットします。新品のカメラの場合、PTRモーターは常にキャリブレーションされています。しかし、カメラの電源が失われたり、モーターが手で動かされたりした場合など、キャリブレーションが失われることがあります。PTRをリセットすると、カメラは再キャリブレーションされ、工場出荷時の設定の位置に戻ります。

**Calibration (キャリブレーション)**  :[Calibrate (キャリブレート)] をクリックすると、パン、チルト、ロールモーターがデフォルト位置に再校正されます。

**Ping** : Pingを実行するホストのホスト名またはIPアドレスを入力して、[開始] をクリックすると、デバイスから特定のアドレスへの通信経路が適切に機能しているかどうかを確認することができます。

**ポートチェック** : チェックするホスト名またはIPアドレスとポート番号を入力して、[開始] をクリックすると、デバイスから特定のIPアドレスとTCP/UDPポートへの接続が可能かどうかを確認することができます。

### ネットワークトレース

#### 重要

ネットワークトレースファイルには、証明書やパスワードなどの機密情報が含まれている場合があります。

ネットワークトレースファイルはネットワーク上のアクティビティを録画するので、トラブルシューティングに役立ちます。

**Trace time (追跡時間)**: 秒または分でトレースの期間を選択し、[ダウンロード] をクリックします。

## 詳細情報

### サイバーセキュリティ

サイバーセキュリティに関する製品固有の情報については、[axis.com](https://axis.com)の製品データシートを参照してください。

AXIS OSのサイバーセキュリティの詳細情報については、『AXIS OS強化ガイド』を参照してください。

### Axisセキュリティ通知サービス

Axisは、Axis装置に関する脆弱性やその他のセキュリティ関連事項についての情報を提供する通知サービスを運営しています。通知を受け取るには、[axis.com/security-notification-service](https://axis.com/security-notification-service)で購読手続きを行うことができます。

### 脆弱性の管理

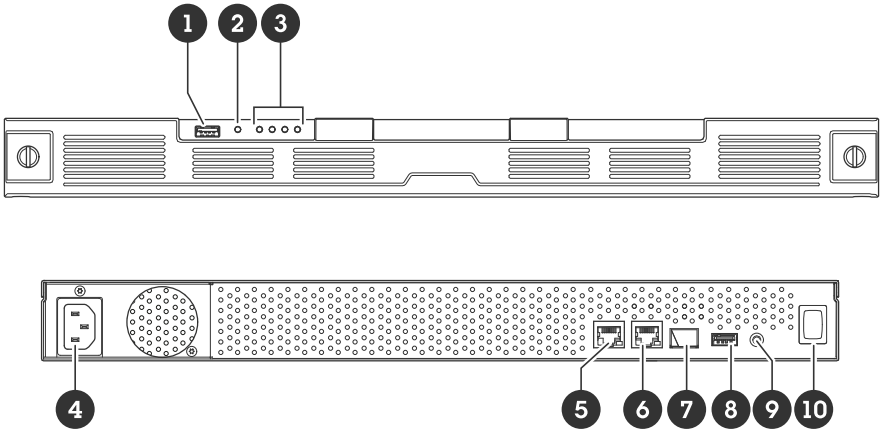
お客様の脆弱性リスクを最小限に抑えるため、Axisは**CVE (共通脆弱性識別子) 採番機関**として業界標準に従って、装置、ソフトウェア、およびサービスで発見された脆弱性の管理と対応を行っています。Axisの脆弱性管理ポリシー、脆弱性の報告方法、すでに公開されている脆弱性、対応するセキュリティ勧告の詳細については、[axis.com/vulnerability-management](https://axis.com/vulnerability-management)をご覧ください。

### Axis装置のセキュアな動作

工場出荷時の設定のAxis装置は、セキュアなデフォルトの保護メカニズムで事前に設定されています。装置の設置時には、より多くのセキュリティ設定を使用することをお勧めします。装置のセキュリティを確保するためのベストプラクティス、リソース、ガイドラインなど、Axisのサイバーセキュリティに対する取り組みの詳細については、<https://www.axis.com/about-axis/cybersecurity>をご覧ください。

仕様

製品概要



- 1 USB 3.0ポート
- 2 製品ステータスLED
- 3 ハードドライブステータスLED
- 4 電源コネクタ
- 5 AUX RJ45ポート
- 6 LAN RJ45ポート
- 7 LAN SFPポート
- 8 USB 2.0ポート
- 9 コントロールボタン
- 10 電源ボタン

LEDインジケータ

フロントLED

| LED          | カラー  | 説明                                                          |
|--------------|------|-------------------------------------------------------------|
| 製品のステータス     | 緑    | レコーダーがオンになっており、ステータスは正常です。                                  |
|              | オレンジ | レコーダーの起動中か、デバイスソフトウェアのアップグレード中です。LEDインジケータが緑色になるまで待機してください。 |
| ハードドライブステータス | 緑    | ドライブはオンラインです。                                               |
|              | 緑点滅  | RAIDの同期処理が進行中です。録画は可能ですが、冗長性はまだ確保されていません。                   |
|              | オレンジ | このドライブはオンラインですが、別のドライブが故障しています。<br><br>RAIDが冗長性を失っています。     |

|  |       |                                                                                                                                                                                             |
|--|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | 赤     | ドライブが故障しています。                                                                                                                                                                               |
|  | すべてが赤 | RAIDに障害が発生しました。<br>システムは録画していません。<br><br>RAIDに障害が発生した場合、故障したハードドライブを特定するには、装置のwebインターフェースにアクセスし、<br>[System (システム)] ><br>[Storage (ストレージ)] ><br>[Hard drive status (ハードドライブのステータス)] に移動します。 |
|  | オフ    | ハードドライブがありません。                                                                                                                                                                              |

## リアLED

| LED       | カラー | 説明         |
|-----------|-----|------------|
| ネットワークポート | 緑点滅 | 1ギガビット/秒   |
|           | 黄点滅 | 100 Mbit/秒 |
|           | オフ  | ネットワークなし   |

## 電源ボタン

- レコーダーをシャットダウンするには、電源ボタンを長押しすると、簡単な音が鳴ります。
- ブザーを無音にするには、電源ボタンを少し押します。

## コントロールボタン

コントロールボタンは、以下の用途で使します。

- 製品を工場出荷時の設定にリセットする。を参照してください。
- インターネット経由でワンクリッククラウド接続 (O3C) サービスに接続します。接続するには、ステータスLEDが緑色に点滅するまで約3秒間ボタンを押し続けます。

## トラブルシューティング

### 技術的な問題、ヒント、解決策

| 問題                                      | 解決策                                            |
|-----------------------------------------|------------------------------------------------|
| 録画が利用できません。                             | に移動します。                                        |
| カメラに接続できません。                            | に移動します。                                        |
| “No contact (接続できません)” というエラー通知が表示されます。 | に移動します。                                        |
| モバイルアプリに自分のサイトが表示されません。                 | 最新のAXIS Camera Station Edgeモバイルアプリであることを確認します。 |

### 一般的な問題を解決する

再起動する前に、装置を設定またはリセットします。

1. カメラとレコーダーに電力が供給されていることを確認します。
2. インターネットに接続されていることを確認します。
3. ネットワークが動作していることを確認します。
4. リモートでない場合は、カメラがコンピューターと同じネットワークに接続されていることを確認します。

まだ動作しませんか？

5. カメラ、レコーダー、およびAXIS Camera Station Edgeに最新のデバイスソフトウェアが適用されていることを確認します。  
を参照してください。

6. AXIS Camera Station Edgeを再起動します。

7. カメラとレコーダーを再起動します。

まだ動作しませんか？

8. カメラとレコーダーのハードリセットを行って、完全に工場出荷時の設定に戻します。  
を参照してください。

9. リセットしたカメラをもう一度サイトに追加します。

まだ動作しませんか？

10. 最新のドライバーを使用してグラフィックカードをアップデートしてください。

まだ動作しませんか？

11. システムレポートを保存し、Axisのテクニカルサポートに連絡してください。  
を参照してください。

### AXIS OSをアップグレードする

新しいデバイスソフトウェアの更新により、最新の改善された一連の機能、機能、およびセキュリティ強化が提供されます。

1. リーダー装置のwebインターフェースに移動します。
2. **[Maintenance (メンテナンス)] > [AXIS OS upgrade (AXIS OSのアップグレード)]** に移動し、**[Upgrade (アップグレード)]** をクリックします。

3. 画面上の指示に従ってください。

## 製品のwebインターフェースにログインできない

設定中に製品のパスワードを設定し、後でその製品をサイトに追加した場合、設定済みのパスワードでは製品のwebインターフェースにログインできなくなります。これは、AXIS Camera Station Edgeによってサイト内のすべてのデバイスのパスワードが変更されるためです。

サイト内の装置にログインするには、ユーザー名rootとサイトのパスワードを入力します。

## すべての録画を消去する方法

1. 装置のwebインターフェースで、[System (システム)] > [Storage (ストレージ)] に移動します。
2. [Format (フォーマット)] を選択し、[Use tool (ツールを使用)] をクリックします。

### 注

この手順では、ハードドライブからすべての録画が消去されますが、レコーダーとサイトの設定は変更されません。

## システムレポートを保存する

1. AXIS Camera Station Edgeでは、 > [Save system report (システムレポートの保存)] に移動します。
2. AXIS Camera Station Proでは、 > [Help (ヘルプ)] > [System report (システムレポート)] に移動します。
3. Axisヘルプデスクに新しいサポート案件を登録する際には、システムレポートを添付してください。

## さらに支援が必要ですか？

### 参考リンク

- *AXIS Camera Station Edge* ユーザーマニュアル
- *AXIS Camera Station Pro* ユーザーマニュアル

### サポートに問い合わせる

さらにサポートが必要な場合は、[axis.com/support](https://axis.com/support)にアクセスしてください。

T10230523\_ja

2025-10 (M1.7)

© 2025 Axis Communications AB